



おさなみひろくに
野田市議会議員・新社会党 長南博邦

おさなみ 議会報告

事務所 野田市山崎貝塚町4-4-3 TEL/FAX 7125-2627
E-mail hiro-osanami@tbf.t-com.ne.jp
ホームページ <http://osanami.web.fc2.com/>



おさなみ
議員勇退

8期32年のご支援に感謝し 議員経験者として活動継続を表明

おさなみ議員は5月市議選に立候補せず勇退を決めた。日本社会党公認を受けて立候補したのは38歳。「30年やります」との約束を守り、政策研究にまい進し、野党ながら議会でリーダーシップを発揮してきた。後継者を出せないことは申し訳ない限りだが、次回に希望をつなぎたいとして活動を継続するという。

新たな活動スタイル確立

確かにおさなみ議員は毎週木曜日の朝の通勤時間帯の宣伝活動や、毎週の議会報告作成、議会ごとの地域への議会報告配布を継続するなど、新たな議員活動スタイルをつくり、毎議会質問を当たり前のこととしてきた。

野田市と議会の課題に向けて

1月に70歳となったのを機会に勇退するが、議会改革の多く

が達成できない心残りがある。特に議会として報告会や市民との意見交換会という、常に市民の声を聞き、議論するシステムができなかったのは力量不足だったと振り返る。

また、企業城下町としての繁栄がはる

が過去の物となり、所得水準も近隣市に大きく水をあけられている現在、野田市のまちづくり



3月議会意見書賛成討論

と市民福祉の向上が最大の課題だが、現状を脱皮できないもどかしさを感じているという。

参加型市民民主主義に努力

これらについては議員経験者として、今後も継続的に提言と監視を続けるとともに、新社会党中央本部書記長として、全国的な貧困と社会保障問題、そして国政革新に向けて職責を果たしたいと衰えぬ意欲を語る。

最後に支援と関心を寄せ続け

てくれた多くの皆さんに心から感謝をささげ、これからも市民が主役の市政を追求したいと締めくくった。

(おさなみ議員 談 5月1日)



週刊 **新社会**

野田市版 5月号外

発行所 新社会党 発行者 岡崎ひろみ
〒101-0051
東京都千代田区神田神保町2-10 三辰工業ビル3階
Tel 03-6380-9960 Fax 03-6380-9963
振替 00140-0-149727 1ヶ月 600円 半年 1600円 1部 150円 40円

<http://www.sinsyakai.or.jp> E-mail honbu@sinsyakai.or.jp

3月議会 レポート

鈴木有市長になって行政事業の総点検をした結果の予算編成となった議会でした。3歳児までの医療費無料化（これまでは1回300円負担）や、

とりわけ4頁の国民健康保険料引き下げと、遅れていた保健サービスの拡充は特筆すべきもので、おさなみ議員は国保会計に初めて賛成しました。

自己情報コントロール権を保障

65歳以上の市民の個人情報を野田警察署に提供するなど問題を起こした野田市。その後も情報公開を巡って市民が提訴するなど、個人情報保護条例や情報公開の運用は問題を抱えていました。時間はかかりましたが、市が

これまで争っていた市民の参加も得て、個人情報取扱事務の届出や個人情報の収集と利用、提供の制限に関する規定を整備し、自己情報コントロール権を規定した画期的な個人情報保護条例となりました。

市立保育所2園の指定管理者指定に反対

野田市は10園の市立保育所のうち7園を株式会社などに運営を委託しています。このことが保育士などの仕事に見合わない劣悪な労働条件となり、なり手不足をもたらして、せっかく保育施設があっても保育士不足で待機児童をつくるという状況が続いています。

おさなみ議員はこのような市民サービス低下と働く人を大切にしない行政姿勢は認められないとして、花輪保育所（㈱日本保育サービスを指定）と北部保育所（㈱コピーアンドアソシエイツを指定）の指定管理者指定に反対しました。議案そのものは賛成多数で可決しています。

ポスター印刷費の流用は違法 今回市議選はまともな使い方を

市議選が迫る中、野田市でも公費負担のポスター印刷費に注目しましょう。

前回市議選では公費負担上限額は467,058円。当選者の会派ごとに見ると、最大会派の政清会は6人が上限額、残り6人も95%以上を請求しています。57.6%しか使っていない（2016年度）政務活動費とは大きな違

いです。公明党は5人横並びで59.8%。民主連合（現民進連合）4名は全員が上限額、共産党2名は69.2%、一人会派は3人が上限額、1人は87.4%。そして新社会党のおさなみ議員は最低申請額で53.3%。

ポスター印刷費の実勢価格は大きく下がっています。それにもかかわらず上限額や、それに近い

公正な入札か疑問 応札は実質同企業

教育委員会の大型バス、あさかぜ号の老朽化に伴い、買い替える契約議案が出されました。

競争入札の結果、税込み2964万円余の金額です。おさなみ議員は賛成しましたが、業者指名の問題を追求しました。

10社指名しての競争入札ですが、仕様書に書かれたバスを製造していないなどで8社が入札辞退（うち1社は指名時辞退）。残った2社は大型バス部門は経営統合をしており、実質同じ会社。これでは公正な入札と言えないのではないかということです。

傍聴議員のおさなみ議員だけが問題を追求しました。他の議員の問題意識欠如はなげかわしい限りです。

請求は他の印刷物に流用していることが容易に想像されます。

柏市議選では毎回ポスター印刷費を巡って市民オンブズマンが監査請求を起こし、17年1月の大阪府茨木市議選ではポスター印刷費が争点の一つになった結果、申請額が激減しました。

税金の使い方を決める議員は自ら襟をただし、疑惑をもたれないようにするべきです。

おさなみ議員の一般質問

裁判敗訴問題・臨時職員待遇改善・パーソナルサポートセンター・介護保険・部活動ガイドライン

おさなみ議員は一般質問で

- ① NPO 法人野田文化広場が利用者市民に損害賠償を求めて敗訴が確定したことについて、
- ② 2020 年度に始まる臨時・非常勤職員の会計年度任用職員制度について、
- ③ 第 7 期に入る介護保険制度及び野田市の計画について、
- ④ パーソナルサポートセンターと職業相談室について
- ⑤ 部活動ガイドラインなど教員の労働時間管理や教員確保策について

を取り上げました。

①については地裁・高裁と市がバックアップした野田文化広場が敗訴して判決が確定しました。訴えられた市民は弁護士を立てずに闘い、言いがかりと排除といえる裁判に勝ちました。

市は関連する公文書非開示裁判で係争中のため答弁できないと逃げましたが、それも地裁で市民の権利濫用との主張が退けられて市が敗訴。高裁判決も間近ですが、敗訴濃厚です。

②については公契約条例を国



内初で条例化をしながら、他方で非常勤職員の多用という問題を抱えており、制度が変わる時点で待遇改善を求めたものです。

④では貧困状態にある市民の駆け込み寺的なパーソナルサポートセンターの活動は立派なものです。その存在があるということが良く知られていません。相談してみようと思うような具体的なホームページをつくるべきなどの質問をしました。

質問当日にはホームページが改善されていました。これでは困るのですが、議会で質問すれば行政が動くという事例になりました。

そして⑤は教職員と児童生徒の部活漬けの問題です。行き過ぎた部活動について調和のとれたものにするためのガイドラインができました。しかし、教職員の過労死ラインを越える長時間労働（しかもただ働き）などが改善されるかは、今後チェックしていかなければなりません。

とんとんみずき橋の再築めぐる裁判でも敗訴 このままでは廃墟! 再生に知恵を

みずきのまちにある「とんとんみずき橋」再築費用を争う裁判でも、千葉地裁松戸支部は2月に野田市全面敗訴の判決を下しました。

これは腐食のため撤去した橋の再建築費用などをUR都市機構が負担すべきと、4年前に野田市が訴えたものです。おさなみ議員を含めて議会は訴訟を起こすことを認めました。

おさなみ議員はその時の心境をこう語っています。「この3年両者の言い分は食い違い、時間がかかるばかり。裁判では裁判長が和解提案してくるだろうから解決が早まる」。その見通し通りに裁判

長は和解提案をしましたが、野田市はこれを蹴り、その結果は野田市の全面敗訴。市は高裁に控訴しましたが、これまでの経費は何と約1390万円! 前市長の強気が裏目に出た失政であり、とんとんみずき橋の再建築の不透明度が高まった。このままでは廃墟となってしまいます。早く橋を渡る子どもたちの故郷の記憶の一つにさせたいのですが。

とんとんみずき橋の惨状



国民健康保険料大幅引き下げ おさなみ議員の決算指摘が奏功

これほど議員冥利に尽きることはありません。議員になって初めて本格的な国民健康保険料の引き下げを主導しました。一人平均約12,500円の引き下げ。これまで一人平均で東葛9市中2番目の高さから下から2番目となりました(表1、3参照)。

今年度から国民健康保険制度の広域化で、財政運営は千葉県が責任を持ちます。その千葉県が示してきた野田市の国保納付額ではこれまでより保険料を引き上げなくてはなりませんでした。

しかし、野田市は下げました。それはおさなみ議員が昨年9月の国保会計決算で次のように指

摘したからです。「実質収支額が例年の5割増し、約15億4,000万円、1人当たり約3万3,000円になっています。例年を超える1人1万円は保険税(当時は税)引き下げに使ってもいいのではないか」同じ9月議会には高すぎる国保税を引き下げしてほしいとの陳情が出ていましたが、賛成したのは新社会党のおさなみ議員と市民ネットワーク、共産党の合計4人のみで、結果は不採択となっています。

しかし、表2を見るように国保加入世帯の所得水準は低く、

表1 保険料東葛各市比較

| 自治体名 | 一人当たり保険料 | 現行順位 | 新順位 |
|-------|----------|------|-----|
| 浦安市 | 106,076 | 1 | 1 |
| 野田市 | 103,555 | 2 | — |
| 流山市 | 101,645 | 3 | 2 |
| 柏市 | 100,093 | 4 | 3 |
| 松戸市 | 94,177 | 5 | 4 |
| 市川市 | 93,774 | 6 | 5 |
| 鎌ヶ谷市 | 92,103 | 7 | 6 |
| 野田市・新 | 91,082 | — | 7 |
| 我孫子市 | 90,824 | 8 | 8 |
| 船橋市 | 89,586 | 9 | 9 |

* 17年度比較。船橋市は今年度後期高齢者支援分を一人1500円引き上げたので野田市と同水準。他市は保険料の動きなしという。

300万未満世帯は約52%となっています。国保負担が重荷になっているのは間違いありません。それを見ずに陳情を不採択にしてしまう議会多数派は市民を代表すると言えるのか疑問です。

問われ続ける議員と議会の役割

一方、市長サイドは2017年度末に約20億7千万円に上る国保の財政調整基金は制度変更後は多すぎるとして、基金を取り崩して保険料引き下げとこれまで待望されていた人間ドック助成(18才から)を始め、800円負担で40歳以上だった特定健診を無料化した上、18歳から利用

できるようにしました。それでは9月議会で陳情を不採択にした議員は、今回の引き下げ提案に反対したのかという全員賛成。これではこれらの議員は市民よりも市長に目を向けて追随しているだけではないかとの不信を買うでしょう。目と耳を市民の暮らしぶりに向けて、いま何が必要なのか自分の頭で考える議員が増える市議選であってほしい。そういう議員を選んでほしいと願うばかりです。



表2 所得階層別世帯数・割合

| 所得階層 | 世帯数 | 割合 | 割合累計 |
|-----------|--------|--------|---------|
| 未申告、0円 | 7,280 | 29.27% | 36.75% |
| 1円～33万円 | 1,860 | 7.48% | |
| ～100万円未満 | 4,094 | 16.46% | 51.90% |
| ～200万円未満 | 5,745 | 23.10% | |
| ～300万円未満 | 3,069 | 12.34% | |
| ～400万円未満 | 1,279 | 5.14% | 11.35% |
| ～500万円未満 | 580 | 2.33% | |
| ～600万円未満 | 285 | 1.15% | |
| ～700万円未満 | 188 | 0.76% | |
| ～800万円未満 | 114 | 0.46% | |
| ～900万円未満 | 88 | 0.35% | |
| ～1000万円未満 | 50 | 0.20% | |
| 1000万円以上 | 236 | 0.95% | |
| 合計 | 24,868 | | 100.00% |

表1 保険料比較

| | 医療分 | | | | 支援分 | | 介護分 | | 一人あたりの保険料 |
|------|-------|-------|---------|---------|-------|---------|-------|---------|-----------|
| | 応能 | | 応益 | | 応能 | 応益 | 応能 | 応益 | |
| | 所得割 | 資産割 | 均等割 | 平等割 | 所得割 | 均等割 | 所得割 | 均等割 | |
| 17年度 | 7.16% | 5.00% | 26,200円 | 25,000円 | 1.84% | 10,000円 | 1.50% | 12,200円 | 103,555円 |
| 18年度 | 5.50% | なし | 14,000円 | 34,000円 | 2.75% | 11,800円 | 2.24% | 13,300円 | 91,082円 |